

② まちと共に歩み自分が輝くクラブ活動、子どもの存在を最優先する学校づくり

■佐々木 孝

1 はじめに

横浜市立青木小学校は、百二十六年の歴史を刻み、平成三年に現学習指導要領に「生活科」が創設された、いわば戦後の教育改革といわれた時に、「青木の風」「生きる 創るそして輝く」子どもの姿を掲げ、学校改善を図りながらこれからの教育の在り方を求め、研究を進めてきた学校であります。

この度の標題にあります「まちと共に歩み自分が輝くクラブ活動」については、本校の「子どもの存在を最優先する学校づくり」の方針のもとで、多様化する教育環境の変化に対応し、学校改善の一環として平成十年度より実施してきたものです。

2 クラブ活動の現状

現行の学習指導要領では「特別活動」の内容について、小学校におけるクラブ活動を次のように述べています。

クラブ活動においては、学年や学級の所属を離れ、主として第四学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、共通の興味や関心を追求する活動をおこなうこと。(平成元年六月文部省)

同時に、第四学年以上の「特別活動」の授業時数として、クラブ活動を含めて年間七十時間(一単位時間四五分)とすることになっています。

新しい学習指導要領で実施されるクラブ活動については、上記の内容と同様ですが、時数について「総則/第四授業時数等の取り扱い」で、次のように述べています。

特別活動の授業のうち、児童会活動、クラブ活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

したがって、これからは、各学校の裁量で時間を工夫して、クラブ活動の目的を果たすようになる訳です。

本校では、主として第四学年以上という内容と共通の興味や関心を追求する活動という内容を、多様化する教育環境の変化に照らし、「子どもの存在を最優先する」課題と「生きる 創る そして輝く」子どもの姿に迫るひとつの方法としてアプローチしたものです。

3 クラブ活動の実際

① 新しい形のクラブ活動ができたきっかけ

【新しい形のクラブがこうしてできました】

一年間、学級の活動でやってきたタンポポの活動を、クラブにつくって続けていきたいなあ。

竹馬がクラブでできたらいいなあ。

お兄さんたちみたいにクラブをやりたいよ。

代表委員会に提案しよう！

低学年の子たちと一緒にクラブはできないよ。危ないしね。

たくさん入っちゃうと、ぼくたちがおもいきり楽しめないよ。

はじめは、高学年の人たちから反対意見も出されました。けれど、子どもたちの真剣な訴えにみんなはだんだん心を動かされていったのです。そして、教職員のこれからの学校の在り方への願いと相まって、とうとう新しいクラブが誕生しました。

先にも示したように、クラブ活動は第四学年から行っているのが実情です。

しかし、本校の新しいクラブ活動は、平成九年度末に低学年からの提案が契機となって誕生しました。同時に、このきっかけは、異年齢の交流関係やまちの中での人間関係が希薄になっていく現状や児童の自主的・実践的な態度を育てていきたいという教師側の願いとマッチしたことでありました。

クラブボランティア紹介



- 1 はじめに
- 2 クラブ活動の現状
- 3 クラブ活動の実際
- 4 まちと共に

② 新しいクラブ活動実現に向かって

本来子どもたちは、自分たちにとって魅力ある活動や本当にやりたい活動には、自分なりの方法で意欲的に取り組みます。希望するクラブが誕生すれば、子どもたちの顔やしぐさ、そして生き方に輝きをもつことは予想されることでもあります。

そこで、子どもたちの提案をよりよく実現するために子どもとの対話や相談がはじまりました。約束ことも生まれました。

希望すれば一年生から参加できるようにしました。

数人が本当にやりたいことがあれば実現できるようにしました。

そのため、思いもかけないクラブも生まれ、数も増えました。

さらに次のような知恵が生まれました。

・クラブの数が多くなったのでクラブボランティアを募集し、多くの保護者やまちの方々協力していただくことになりました。

・似たようなクラブを校舎のもつ特徴に合わせて、ゾーンで示し、教師は大枠で見守るようにしました。

・参加の把握は、名前の書いた磁石をホワイトボードに付けるようにしました。

・二カ月ごとにクラブ活動を変更し、入りたいクラブを再考するチャンスを与え、「自分探し」の機会にしていくようになりました。

③ 温かで偉大なる支援者

「クラブボランティア」

多くのクラブ活動に対応するためにクラブボランティアを募集しました。

自分のもっている技術を生かして支援してください。一緒に楽しもうと思っただけでくださる方など、クラブボランティアのみなさんが本校のクラブ活動を盛り上げてくれています。

一年に数回のイベント事業とは異なり、週一回の割合で行われるクラブ活動は、クラブボランティアの方々とのかっこの出合いの場になっています。

クラブボランティアの方が、まちの中で、子どもたちから「先生！」と呼ばれて挨拶を交わしたり、料理クラブや手芸クラブのように、通常の学習の場や親子交流会の場に「学習ボランティア」として、子どもと関わる場面も増えてきています。

また、手話や囲碁・将棋クラブのように、ボランティア同士がサークルを創って、活動を広げていくという場面も学校のなかで生まれてきています。

中には、クラブ活動の時間より少し早めに来校し、ひとしきりボランティア同士でおしゃべりをし、腰を上げる方もいます。参加簿や名札、学校からのお知らせ、お茶の用意なども全部ボランティアの仲間で行っていただいています。

クラブ活動は、学校教育の中に温かなサロンとなって、自然交流を育み、知的好奇心が舞う探求の場になりつつあります。

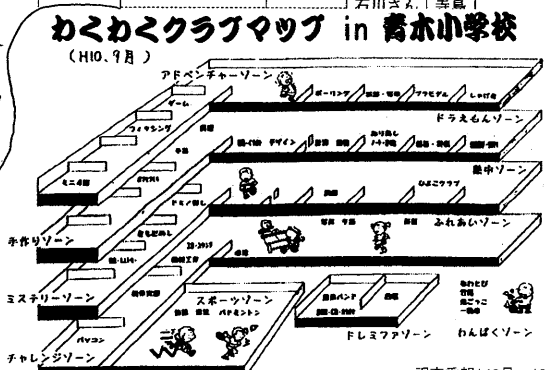
穏やかで緩やかな大人の寄り添いが、今、子どもたちに、そして大人同士にも必要な時なのかもしれません。

【子どもの願いをかなえるために考えました】

クラブ活動（2学期）一覧表 平成10年10月15日 特別活動部

ゾーン名	ゾーン範囲	クラブ名	活動場所	ボランティア名	担当者名
ドレミファゾーン	西校舎地階	合唱	第2音楽室	橋本さん	松崎
		流行歌・CD・カラオケ	第1音楽室	橋本さん	北崎
ふれあいゾーン	西校舎1階	卓球	職員室前	矢代さん	有馬
		茶道	和室	竹俣さん	倉岡
		写真	ランチルーム	有馬さん	長野
		手話		山崎さん	
(生け花)	小林さん				
チャレンジゾーン	南校舎1階	機械工作	図画工作室	吉田さん	高橋
		科学実験	理科室		
		パソコン	視聴覚室		
熱中ゾーン	西校舎2階	ひよこクラブ (旧絆絆ボク、鳥理バイト女団)	1年各教室	加藤さん 石渡さん	井上 上妻
		演劇	1年講義室	波能さん	
ミステリーゾーン	南校舎2階	ドミノ倒し	4-1の講義室	藤平さん 岡崎さん	草野 金子
		きもだめし	4-1		山下
		(探偵・ミステリー)	4-2		
スポーツ	南校舎2階	漫画・イラスト	図書室	熊谷さん 白鳥さん 東海さん	小池
		デザイン			

ゾーン名	ゾーン範囲	クラブ名	活動場所	ボランティア名	担当者名
ドラえもんゾーン	西校舎3階	自然遊び・虫取り	2-3	大山さん	小池
		料理	家庭科室		
手づくりゾーン	南校舎3階	手芸	5-1隣教室	大木さん 山口さん 藤光寺さん	野口
		ポプリづくり	5-1		大澤
		(演芸・手品)	5-2		三登
		ピーダマン	5-3		
アドベンチャーゾーン	西南校舎4階	(ボーリング)	3-1隣教室		木本
		鉄道・電車	3-1	川井さん	小野
		プラモデル	3-2		井桁
		しゃげき	3-3		
		ミニ四駆	敵対1階7号～8号	三宅さん	(湯本)
		ゲーム	6-1		



4 一まちと共に

クラブボランティアと一緒に―活動の姿―

本校でのクラブ活動は、「まちと共に創る学校」という願いを大きく躍進させています。このことは、青木小学校というまちの風土が大きく左右していることはいまでもありません。例えば、子どもたちが「まち探検」をしたり、子どもたちの提案でスポーツフェスティバルなどでまちの方々に協力いただいたりしたときも、快く相談に応じてくださる方々がいるからだと思えます。また、平成十年度から始まった「学校教育懇談会」での子どもと保護者とまちの人たちと教職員がこれからの学校を語り合うときも、大勢の方々が関心を寄せ、懇談会に参加してくださいませ。青木小学校と山形県たがわ農協協引支部とが長い間稲作体験学習で交流をしていたことが縁で、神奈川区民祭りに一役をかって農産物を出店できたという方向性を見ても「まちと共に学校を創り、学校と共にまちを創る」時代に入ってきているのではないのでしょうか。

本校のクラブ活動は、直線的にその目的に向かうのではなく、周りにある価値に着目し、より今日的な課題を付着させながら、新しい教育環境を産み出し、そして歩んでいます。「まだあるかもしれない」という好奇心と知恵や発想を大切に、これからの教育に繋げていきたいものと考えます。

△市立青木小学校校長▽

《参考資料》

「今、学校が変わる！『総合的な学習の時間』を創る実践ガイド」監修：小松郁夫

7月	6月	5月	4月
 <p>反省会の様子</p>	<p>クラブの中でも多くのボランティアが参加する「囲碁・将棋クラブ」です。子どもたちの挑戦を受けながら、わかりやすく解説もしてくれるので、とても人気があります。</p>	<p>何をどうしたらよいか？最初は図書室で本の整理をしたり、自分で好きな絵をかいたり。でもだんだん子どもたちと会うのが好きになってきて、クラブのある日を楽しみ過ぎていきます。地域とのふれあいの中で、子どもたちが育っているという実感があつて、クラブボランティアの企画はすばらしいと思います。 イラストクラブボランティア 東海 桂子さんより</p>	<p>クラブボランティアとのミーティング。新しいクラブ活動が始動します。子どもの中からリーダーを選出し、クラブボランティアの方々と顔合わせをします。 活動計画をみんなで立てて、クラブの時の約束をつくり、楽しく活動が進められるようにします。</p>
<p>↑</p> <p>クラブボランティアとの反省会。一学期の活動が終了しました。ボランティアの方々とゾーン担当の先生とで、クラブの様子や悩み事など相談したり子どもたちの輝いた様子など紹介し合い、二学期の活動の広がり役立っています。</p>	<p>↓</p>  <p>囲碁・将棋クラブ</p>	<p>↓</p>  <p>イラストクラブ</p>	<p>第一回のクラブ活動終了後、リーダーと教職員、クラブボランティアの方々とゾーンごとのミーティングを行います。活動の見通しがもてるように三者での話し合いをします。</p>
<p>↓</p>  <p>日本たんぼぼクラブ</p> <p>ボランティアのみならず、子どもたちから、歌のプレゼントもあります。</p>	<p>←</p> <p>クラブ活動は、学校の中だけにとまりません。「日本たんぼぼクラブ」は、公園に日本たんぼぼ基地をつくっています。</p>	<p>→</p> <p>何も特徴もないまま、クラブボランティアに飛び込みました。私にとってたいへんよい機会になりました。気が付いてみると、クラブの日が私の楽しみになっていきます。 料理クラブボランティア 藤平 美香子さんより</p>	<p>→</p>  <p>料理クラブ</p>